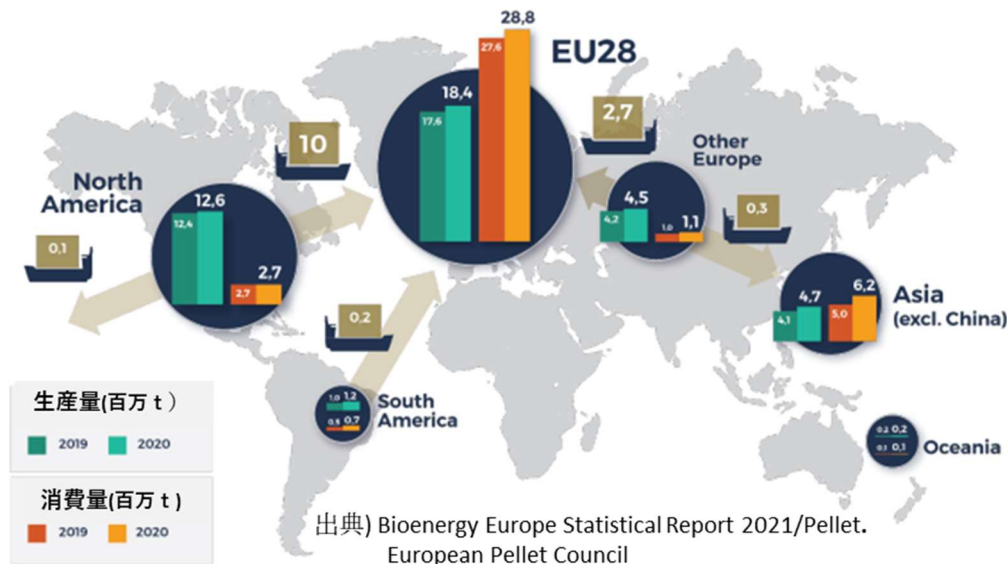


4. 木質燃料の生産 (5)

木質ペレットの国際貿易の実態

今や木質ペレットは、化石燃料と同様に国際流通燃料として重視されるようになってい
る。図表 4.6 は 2020 年の世界の木質ペレットの貿易の流れまとめたもので¹⁾、生産の中心
は EU27 と北米にある。消費の中心は EU27 にあり、欧州圏内でも国家間の流通が活発に
行われるが、圏内での供給が需要に追いつかない分、北米やロシア等からの輸入に頼って
いる。中でも英国の年間 1000 万 t の輸入はほとんどが北米からで、その約 8 割がバイオ
マス発電としてはヨーロッパ最大の Drax 発電所（出力 260 万 kW）で消費されている²⁾。
北米は原料資源が豊富でペレット生産インフラも充実している。しかし自国消費は生産量
の 2 割程度で、北米東海岸からのヨーロッパ輸出、西海岸からは韓国、日本などのアジア
輸出が主要なルートになっている。

アジアでのペレット消費は韓国と日本の 2 か国に集中している。しかし 2020 年の工業
用ペレットの動向には両国間で異なる傾向が見られた。韓国では REC 価格（FIT 価格に相
当）の下落がペレットの使用と輸入に直接影響を与えており、ペレットの産業利用の将来
展望には不透明感がある。それとは対照的に日本は、FIT というはるかに安定した支援ス
キームを有しており、東南アジアとカナダからの需要に見合った堅実な工業用ペレットの
供給はこの支援スキームを可能にしている。現在の成長に基づくと、日本は 2030 年まで
に産業用ペレットの使用量が 1,000 万トンに達する可能性がある²⁾とされている。



図表 4.6 木質ペレットの国際貿易マップ

1) European Pellet Council(2021), Bioenergy Europe Statistical Report 2021/Pellet.

2) ShareAction(2020), Biomass Combustion Plants